

令和2年度市立砺波総合病院経営改善委員会の概要について

「市立砺波総合病院経営改善委員会」を開催し、経営状況等の点検及び評価を行いましたので公表します。

平成29年3月に策定した市立砺波総合病院新改革プラン（計画期間平成29年度から令和2年度）について、この計画に基づく経営状況の点検及び評価を行うため、市立砺波総合病院経営改善委員会（以下「経営改善委員会」という。）を開催しました。

経営改善委員会は、医療関係者のほか、市民団体、経済界、行政等の様々な専門分野の委員8名で組織されており、市立砺波総合病院の経営改善に関する事項等について点検及び評価のため設置しております。出席の皆さんは次のとおりです。

（敬称略）

要綱に基づく区分	役 職	氏 名
医療政策に指導的立場に立つ医療関係者	金沢大学附属病院消化器内科教授	金子 周一
砺波医療圏における医師又は看護師等が組織する団体の代表者	砺波医師会長	藤井 正則
市民が組織する団体の代表者	砺波市地区自治振興会協議会長	井上 五三男
	砺波市母子保健推進員連絡協議会長	齋藤 幸恵
その他学識経験を有する者	砺波商工会議所会頭	北村 憲三
	税理士	水木 保男
行政関係者	富山県砺波厚生センター所長	垣内 孝子
	砺波市副市長	齊藤 一夫

市立砺波総合病院経営改善委員会の概要は次のとおりです。

- (1) 日 時 令和2年11月11日(水) 午後4時から午後5時15分まで
- (2) 場 所 市立砺波総合病院 南棟2階 第1会議室
- (3) 出席委員 経営改善委員会 委員8名
- (4) 協議事項

① 令和元年度経営状況について

収入では、入院・外来ともに延べ患者数が減少したことにより減収となった。費用では、給与費や減価償却費が増加したことにより、全体として支出が収入を上回り、平成28年以来の赤字決算となった。

② 令和2年度（上半期）経営状況について

新型コロナウイルス感染症の影響により一部診療制限を行ったことなどから入院・外来ともに患者数が減少しており、本年度上半期は、前年度上半期に比べ黒字額が減少している。

③ 市立砺波総合病院新改革プランの数値目標と取組みの達成状況について

令和元年度の数値目標に一部未達成の項目もあるが、年度後半には目標を達成または達成見込みが見えてきているものもあり、引続き達成に向けた取組みを進める。

④ 令和3年度のプランについて

本来であれば今年度中に来年度以降の新たなプランを策定すべきところであるが、プラン策定の指針となる国が示すガイドラインについて新たなものが未だ示されていない状況から、現行プランを1年延長するものとし、実績や今後の影響を考慮して目標値を設定し、これを反映した収支見通しを示した。

委員からの主なご質問やご意見は次のとおりです。

《ご質問》

- ・ 新入院患者数の減少について質問があり、当院受診患者の過去推移による検証からは75歳以上の方及び65歳未満の方の減少がみられており、75歳以上の後期高齢者は在宅による医療及び介護の充実、65歳未満の方は未病対策などの要因も影響していると考えている。一方で、事故・急変・重病患者を受け入れる診療科の患者数は減少していないことから、急性期医療提供の役割は果たしているものと説明した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の病床の確保状況について質問があり、現在県から40床の確保要請があり、受入れ時に影響がある病床（休止病床）を含め、要請数以上の病床を確保していることを説明した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策のための交付金について質問があり、今後、病床確保に対するの交付金が交付される見込みであり、適切に申請を行っていくことを説明した。
- ・ 地域医療構想の新型コロナウイルス感染症の影響を含めた再検討の必要性について質問があり、厚生センターから議論を重ねて対応していく方向であるとの説明があった。
- ・ 病床数の変更について質問があり、減床分は休床していた箇所であり、正式な法手続きを行ったこと及び稼働病床としては変更がないことを説明した。

《ご意見》

- ・ KPI や行動計画目標の達成状況において、未達成の理由を病院全体で十分検証し対策を取るよう引続き努力していただきたい。